

令和5年度第1回小金井市児童館運営審議会

日時 令和5年5月24日(水) 午前9時30分～午前10時30分
場所 小金井市役所 第二庁舎8階 801会議室
出席委員 7人
会長 倉持 伸江 委員
委員 村澤 トキイ 委員 小柳 政憲 委員
門脇 利種 委員 鈴木 順子 委員
木本 茜 委員 小林 浩 委員
欠席委員 3人
委員 高橋 秀樹 委員 大久保 美千子 委員 三浦 大輝 委員

事務局 児童青少年課長 深草 智子
児童青少年係長 鈴木 拓也
児童青少年係主任 林 礼子
貫井南児童館 森 直人
本町児童館 鈴木 慎一
緑児童館 山田 仁美

傍聴者 1人

1 開会

深草課長

本日は、お忙しい中、御出席いただき誠にありがとうございます。事務局の児童青少年課長の深草と申します。よろしく願いいたします。

開会に先立ちまして、事務局から何点か御案内させていただきます。

本日の審議会におきましては、三浦委員、大久保委員、高橋委員、3名の委員から欠席の連絡を事前にいただいております。

次に、本日の配布資料についてですが、次第のほか、次第の下部に配布資料の一覧を記載しておりますので御確認いただき、不足がありましたら事務局にお申し出ください。

次に、委員の変更についてです。小金井市立学校教職員選出の山中委員が令和5年3月31日をもって退任され、後任といたしまして新たに門脇委員が就任されました。本来であれば、委嘱状を市長から直接交付をさせていただくところではございますが、机上での配布をもって委嘱状の交付に代えさせていただきますので御了承ください。

それでは、就任に当たりまして、門脇委員から一言御挨拶いただければと思います。

門脇委員

4月に赴任してまいりました。山中校長先生の後任です。門脇と申します。よろしく願いいたします。

深草課長

ありがとうございました。

最後に、本日の審議会進行につきまして、会議録作成のため録音をさせていただいておりますので、発言の際にはお名前をおっしゃっていただいてから御発言いただきますよう御協力よろしく願いいたします。

それでは、議題に入りたいと思いますが、ここからは会長に進行をお願いいたします。

2 議題

倉持会長

それでは、これから令和5年度第1回小金井市児童館運営審議会を始めたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

令和5年度の第1回ではありますが、私たちの任期としては本日が最終回ということになりますので、限られた時間ではありますけれども、御意見をいろいろと出していただければ幸いです。

それでは、初めに事務局から本日の流れについて説明をお願いします。

鈴木係長

本日の議題は1点になります。前回の審議会の際に御案内をさせていただきました児童館のあり方検討に向けた意見シートの集計結果がまとまりましたので、その結果を本日の議題とさせていただきます。

その他といたしまして、5月8日以降の児童館の運営状況について、児童館職員から御報告をさせていただければと思います。

本日の流れは、以上になります。

倉持会長

それでは、議題に入っていきたいと思います。

まず議題1、児童館のあり方検討に向けた課題の整理についてと、事務局より

説明をお願いします。

鈴木係長

お配りした資料14を御覧いただければと思います。こちらは前回、3月に開催をさせていただいた審議会の際に、皆さんに御提示をさせていただいた児童館の今後の在り方検討に向けての意見を集約させていただいた結果の一覧となっております。

先般から御案内をさせていただいておりますが、今後の児童館の在り方について、次期任期において具体的な検討を事務局としてはしていきたいと考えておりまして、そちらを考えていく上での課題ですとか方向性を土台として、この資料を活用させていただく予定としております。

次期任期においては、基本的にこの意見のほか、子育て支援課で行う「のびゆくこどもプラン」の改訂に当たって行う市民アンケートの結果なども踏まえて、児童館の在り方について検討をしていく予定としております。

本日お配りさせていただいた資料のほか、何か御意見等がございましたら、本日皆さまから御意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

倉持会長

ありがとうございました。

すみません、私から確認ですが、これは委員さんから出した意見そのままではなくて、少し集約して書かれているということですか。

鈴木係長

原文のまま掲載をさせていただいております。

倉持会長

ありがとうございます。それでは、お出しいただいた意見についての修正でも結構ですし、追加でも結構ですし、御質問でも結構かと思っておりますので、次期に送っていく意見として何か御意見ありましたらいただければと思います。いかがでしょうか。小林委員、どうぞ。

小林委員

前回ここに加われずに大変恐縮ですが、児童館がやっぴらっしゃることはすぐ、ここを見てもかなり多様性があると思うのですが、やはり児童館が外に出ていくという形が、今のところ車で野原に行くということぐらいしかないので、これは児童館の職員さんとかスタッフさんの問題もありますし、地域のNPOとか、そういう任意団体とかと協力をしていくというやり方もあると思うのですが、児童館がやはり司令塔になって、例えば各公園で遊びの何かきっかけをつくるか、なるべく地域に出ていくということが、可能性としてあるのではないかと。当然そこにはお金も人もかかるのですが、何か小金井的なやり方で、しかも、そういうのを頼んだらやってくれそうなどころもありますし、あとコミュニティスクールというものもありますので、子どもに対するいろいろな知見とノウハウを持っていらっしゃる児童館なので、司令塔的な役割を果たしていただきたいというのが少しありまして、できれば、そういった形で地域へ出て行って、児童館的な要素に触れる機会をもっと増やすということを目指していただきたいなど。当然それは簡単ではなのですぐには無理だと思うのですが、将来的な考え方として、当然、子どもの福祉というものに反映をするんですが、若干コミュニティの形成とか人のつながりづくりというところの要素がありますので、児童館の外に広げる

ということをぜひ目指していただきたいなというところを申し上げておきたいと思います。

倉持会長 ありがとうございます。全体に関わることかと思いますが、児童館の館内にとどまらずという意味ですかね。

小林委員 はい、そういうことです。外に児童館的なものを広げる手段を何かできないものかと。当然単独ではなく、協業という形を取って何かできないものかと、そういうことを考えていただきたいし、児童館のスタッフの方にまた負担がかかってしまうのですが、そういった戦略も地域と一緒に考えていっていただきたいなと思います。

倉持会長 ありがとうございます。児童館に訪れる子どもたちだけじゃなくて、児童館から出ていくような活動というのもあるのではないかという積極的な御意見をいただきましたので追加していただく方向で。

そのほか、ほかの方が書いていらっしゃる意見に御賛同でも、あるいは修正でも追加でも結構ですけれども、いかがでしょうか。ここにあれが出ていないとか、児童館の在り方について、この部分の視点がなくて大丈夫かとか、そういうことでも結構です。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 今、小林委員おっしゃっていたことに関連してですが、地域に出ていっていただくという動きが少しずつあるとして、今、小学校3年生までは学童に行っていますけれども、やはり途中で退所したりする子ども多かったり、3年満了しても4年生からの居場所に結構皆さん、毎年、いまだに困っていらっしゃるんですね。ただ、三小学区ですと、緑児童館はもちろんあるのですが、なかなかなじみのない子ども、家庭自体も結構多いので、緑児童館、あるいはほかの児童館まで出向かなくても、児童館ってこういうことをやっているというのが、児童館まで行かなくても出会える場所があるというのは、そういう問題の解決につながっていくのかなという気はいたしますので、ぜひこの意見を受けて何か動きがあればいいかなと感じています。

倉持会長 ありがとうございます。児童館に行って、こういうものだとは知るだけじゃなくて、行く手前のところで、そういうところがあるから行ってみようかなとか、何かあったら訪ねてみようかなということですよ。

鈴木委員 そうですね。なじみ自体は薄かったりすることが、かなりあるかなと感じていますので。

倉持会長 ありがとうございます。確かにそうですね。せっかく各地域にあるといいながら、全体の意見にもあるように、ない地域もあるということ自体も課題の一つかもしれないですけども、知っていただくということですよ。訪れていただく。

ほかにはいかがでしょうか。木本委員、お願いします。

木本委員 小林委員や鈴木委員と似たような部分はあるのですが、私の周りは、東地区なので、すごく東児童館が身近にあって、逆に保護者は児童館に行かせれば安心という形が多いです。なので、子どもに、学校の放課後、児童館なら行っていい、ほかは行かないでというように、子どもの居場所を限定してしまう一因にもちよ

っとなっていて。でも、それは児童館が親にとって、保護者にとって安心な場所というのがあります。ただ、そうすると子どもの自分で選べる居場所がすごく限定的で、体験できることだったり、子ども自身が実体験で遊びの場でできることもすごく限定的になってしまう懸念があるかなと思うので、小林委員がおっしゃっていたように、地域のNPOであったり、いろいろな市民活動と一緒に協働して、どの人とやっていくかという精査をしていくのはすごく難しいと思うのですが、一緒にやっていくことで保護者の信頼感というか、安心できる場所も増えていく。それによって子どもの選べる居場所も増えていくというようにつながっていくと思うので、ぜひ外に出て、ほかの団体と一緒にやっていただくというのは、市民としてありがたいことかなと思っていますので、お願いしたいところです。

倉持会長

ありがとうございます。児童館以外の居場所、活動、取り組んでいる団体とか場所などと連携することで信頼感も増し、ネットワーキングすることにもつながるし、選択肢が増えるみたいなことですね。

そういうつなぎ目というか、その辺の役割が児童館にはあるのではないかと思います。どうもありがとうございます。

子どもたちにとっての居場所機能をどう向上するかとか強化するかというのを、中にとどまらずという御意見を今いろいろといただいたかなと思います。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。お願いします、村澤委員。

村澤委員

私の地区は南中学校と南小学校の区域なのですが、貫井南児童館が学校から随分遠くて、小学生などは利用する方が限定的になる。あと、親御さんの送迎も必要となっていますので、送迎が可能な御家庭の方は、例えば健全育成地区主催の催物などが行われれば申し込むことはできるのですが、送迎ができないとなると、生徒さんが行きたいと思っていても行けないこともあるかと思います。だから、わりと前原小学校の生徒さんは利用が少ないように思います。その辺、どうにかならぬかと言われても、家庭の問題もありますので、場所が遠いものですからということを心配しています。

倉持会長

ありがとうございました。なかなか物理的な問題を解決するのは難しい、離れているという課題を解決するのは難しいけど、どうやって参加しやすく、来館しやすくする支援をするかということですかね。今のお話を伺っていると、子どもたちに知ってもらうだけではなくて保護者の関心や理解を得ることも非常に大事ななということ、先ほどのお話とも併せて、周知ということも含めてですけれども、あるなと思いました。

そのほか、いかがでしょうか。せっかくだから一言ずつ。小柳委員、いかがでしょうか。何か御感想でも御意見でも。

小柳委員

今話を聞いていて、児童館の役割はとても大きなと思うのと、行きたくても行けない子たちもいるのだなということは改めて分かったなと思っています。

今、小学校も中学校も課題になっているのは、不登校児童が増えていくというのはとても課題となっていると思います、児童館が子どもたちの居場所であったりとか、児童館で過ごすことが学校に行くハードルを下げるとか、そういう役割

も担っているのだと思うし、今いろいろな要請で、学校はもっと楽しい場所だよとアピールしたいけど、アピールがなかなか難しいような状況になっている中、児童館が本当に楽しいことをやってもらえているのはありがたいし、それを受けて学校ももっと楽しいことを引きずられてやれるようになっていくのではないかなという期待を持っています。

例えば、コロナでできなかつたのかもしれないけれど、児童館でいろんな料理を作って、クッキングとか。そういう体験活動、作って、食べてという経験だったりとはとても楽しいと思いますが、そういうのが全くなくなって、学校は学校で、働き方改革みたいな名の下に遠足がなくなったりとか、おやつを持っていくとアレルギーが心配だったりとか、どんどん世の中が子どもたちの楽しさを奪うような方向に向かっていくような気がしていて、そういうのを少しでも取り除いていくことが大切かな。児童館と学校がそういう意味で楽しいところ、子どもたちが夢を持てるような場所になるといいなと思っているので、協力し合えたらいいなと思っています。

倉持会長

ありがとうございます。今、不登校の問題とかも取り上げていただきましたけれども、確かに料理の話題は結構、この事業報告とか事業計画を伺う際に、今年度は再開できますというお話を前回伺ったりしましたけれども、楽しいプラス生活で学べるというのが大事な要素だったのだなと、なくなって改めて私たちも気づいたというところが大きかったと思うので、今のお話もとても大事な、児童館ならではの機能というか、要素だったなと思います。それを維持、向上していくということが大事だということですね。

すみません、門脇委員、本日からいらしていただいて、子どもたちの様子なども考えながら、児童館に期待することなど何かありましたら御意見いただけたらと思うのですが。

門脇委員

ここに出された意見、それから議題で児童館のあり方検討に向けたというところで、大きくハードとソフトに分けて考えたほうが分かりやすいのかなと。御意見を伺っている中でも、やっぱりハード面のことが多いかなという気はします。

ハード面は、できることと、大きすぎてできないこと、例えばこの地域にないから急に造れと言っても造れないとかいうこともあると思います。なので、できることは何だろうというのを考えながら、ハード面とソフト面それぞれで考えていかなきゃいけないのかなと。

中学生は、ここにも書かれているのですが、なかなか時間的に難しいところが正直あります。私が違う地域にいたときにも、いわゆる児童館のリーダー的なことをしてくれる人というので中学生が何人か関わったりしたのは見えています。ただ、それは部活に入っていなかったり、そういう子がたまたま、昔、児童館とか学童とかで関わっていたから、そういうのをやるよというような子がいたりするので、全然いないとは言い切れないと思いますが、実際、授業も小学校より長くやっていますし、その後、部活動があってというと、ここに書いてあるように、乳幼児との接点というか、重なる時間はなかなかないのが現実かなと思って見させていただきました。

倉持会長

ありがとうございます。少し課題を見るときに、ハード、ソフトという、今、世代別になっていますけれども、そういう見方をすると少し整理されるのではないかと、確かにそうだなと思いました。

中高生のボランティアが結構、本人たちの居場所とともに活動の中核になっているという報告を伺っていると、なかなかたくさんというわけにはいかないかもしれないですけれども、本人たちにとっても、あるいはそれに関わる児童とか幼児とかにとっても意味がある活動だろうと思います。その年度の傾向というか、波が当然ありつつということかと思っています。

私は東京学芸大学で働いているということもあるので、大学生などもそうですが、中高生のさらに上の若い世代たちがボランティアとか様々な形で関わらせてもらうことも多くて、そういうことを研究したいとか言っている学生の話とかを聞くと、子どもと学校外で関わる活動というのが、関わる大学生とか若者にとっても、すごく意味とか価値のある活動なんじゃないかという問題意識を持っている学生たちの話を聞くと、確かにそうだろうと。そういう観点があるからこそ、児童館が地域の居場所として継続しているのだらうと思います。いろんな世代の人たちが交流するということと、小学生、中学生、高校生から見たらちょっと上の世代の人たちも関わりができるというのは、地域から見たら、とても継承とか交流という意味でいいなと思いますし、事業の御報告を伺っていると、地域の大人の方たちがボランティアとして関わってくださったりとかして、シニアの方たちも含めて若い世代と関わる機会というのは、すごく社会貢献できたり、あるいは生きがいを持ったり、その知恵が次の世代に伝わったりという意味で意義があることだなと思いますので、そういう機会を継続、発展をさせていっていただきたいなと、今のお話を聞いて思いました。

その他、何かございますか。課題とか、懸案としては、児童館がない地域の問題というのは度々ここでも話題になっていたかと思っています。短期的には解決できない、しかし、地域にとっては長期な課題ということとして挙げられていたかなと思います。

あと、開館時間の問題も、この会議で話題になったこともあったかと思いますが、長くしたほうがいいのかという意見と、長くむしろしないほうがいいのかという意見といろいろと御意見はここでも出されていたかなというふうに思います。子どもたちの居場所としての機能と安心・安全なという部分との両立をどう図っていくかということも、今後、サービスの向上ということと公共的な施設という部分の兼ね合いというところも検討課題かなと思いますし、委託問題も少し話題になったことがあったかなと、今後もあるかなと思うのですが、これまで蓄積してきた小金井市の児童館は非常に幅広い事業を継続的に展開していて、特徴的な活動もたくさん行っているわけですが、そういったものが失われないようにということと、時代に応じた支援ということの両立をどう図っていくかということが重要かなと思います。

その他、何かございますか。どうぞ、小林委員。

小林委員

どうしても名前が児童館というものに引っ張られて、どうしても小中学生をメ

インにイメージしてしまのですが、中高生向けのユースセンター的な観点もあると思いますし、緑児童館でも森さんが高校生とか中学生の相手もしてくださっていて、ユースセンターという名前も、まだ皆さん、耳慣れないかもしれませんが、京都では始まっていますし、世田谷でもやっています、要は18歳までということを見ると、何ができるのかいうところはあるのですが、児童館という名前に引きずられて、どうも小中学生中心にと考えがちですが、18歳まではユースセンター的な役割もあるということを再認識していただくとか、再定義するみたいなことをあり方検討でもう一回、念押しをしていただきたいなと思っています。

倉持会長 ありがとうございます。特に中学生、高校生、ティーンエイジャーでしょうかね、その辺の支援、あるいは機能というところですよ。物理的などという意味だけじゃなくてということですよ。

小林委員 はい。ユースセンターの役割もぜひ検討して、当然、単独では無理だと思うので、やはり協業を意識してということだとは思いますが。

倉持会長 ありがとうございます。自治体によっては、特に中高生をメインとした施設とか居場所があったりしますけれども、そのように分けるというよりは機能を高めていくということもちゃんと着目したほうがいいのではないかと御意見ですね。

そのほか、よろしいでしょうか。どうぞ、小林委員。

小林委員 連続で申し訳ありません。さっき保護者の接点というのがありましたが、ただ保護者に来てくださと言っても、忙しくて来るわけないし、接点を持ちたがらないので、児童館の専門性というか、皆さんの専門性を生かした上で、遊びというものがいかに子どもたちに対して大事かということ。児童青少年課や児童館のみなさんも当たり前のように分かっていますが、遊びってただ怠けているだけだよねと捉えている昭和世代もいますし、今の保護者の方も、遊んでいるだけだよね、怠けているだけだよね、勉強にはつながらないよね、学びにはつながらないよねと、遊びというものをちょっと誤解しているというか、そういうことがあるのではないかとこの部分と、子どもに対して、遊びというものにどう関わっていけばいいかということに関しては、保護者の皆さん、全然分かっていないです。私も、見ていると過剰に介入しすぎているというところもあって、しょうがないといえばしょうがないのですが、子どもにどう接したらいいとか、子どもにとっての遊びとか、子どもの自治とは何ぞやとか、子どものど真ん中ってどういうことだとか今言われていますけれども、そういったところを、知見のレベルアップといいますか、啓蒙というか、そういったところの司令塔にもなっていただきたいなと。それって公民館の役割だろうと言ってしまったら、もうそれまでなんですけれども、実践されて分かっていらっしゃる方が言うと、絶対説得力が違うかなという気もしていて。私も森さんと緑児童館でやっているときにいろいろ気づかされたことも多かったですし、そういう体験というか、そういう経験というものをもっと広げたほうがいいのではないかとこのことがあって、一つ手がかりとしては、例えばコミュニティスクールが始まっていますので、PTAの勉強会に

お邪魔するとか、そういうつながりをつくって小学校とか中学校に行くという、これはあくまでもたとえの話ですけれども、やはりこれも児童館の中にとどまっているというよりは、外に出て行って関係性をつくった上で子どものプロとしていろいろ広げていくということも、ぜひ視野に入れていただけるといいなということです。

すみません、かなり過大なことを言っていますけれども、可能性を私は期待しているので、ぜひ御検討いただければと思います。

倉持会長

ありがとうございます。さっきも保護者との連携とか関わりという話は出ましたけれども、家庭教育支援となると、ちょっとまた幅は広がっていくかなとは思いますが、その辺の連携や、PTAさんの話なんかも出ましたけれども、確かに協働みたいなことも大事なかなという話ですね。

小金井市は子どもの権利条例も制定していますので、さっきのお話を聞いていてもそうですけど、体験とか、料理の話もそうでしたけど、交流を通して地域とか社会とつながったり参加する一つのきっかけの場なのだろうなという、その辺の機能を向上していくのが重要なかなと思いました。

小林委員、もう大丈夫ですか。言い足りないことは。

小林委員

大丈夫です。要は、子どものことを学ぶと児童館とつながり、親御さん方ともつながるので、学びを通したつながりづくりという中に入れられるのではないかと、先生のおっしゃるとおりだと思います。

倉持会長

ありがとうございます。学びとか遊びという、大事さということをお伝えいただきました。

では、議題1はよろしいでしょうか。次期に向けて申し送っていただいて、より具体的に御検討いただくということになるかと思います。

それでは、議題1については以上にします。

では、議題2でその他として事務局よりよろしくお願ひします。

鈴木係長

5月8日以降の児童館の運営について、児童館職員から御報告をさせていただければと思います。

森主査

5月8日にコロナが5類になったというところですが、コロナの対策についてはこれまで感染対策と行動及び活動の自粛というのがありました。もちろん全てリセットされたわけではありませんが、感染対策は行いつつ、令和元年度の状況に戻したと考えていただいて結構です。特に、先ほどもありましたが、料理といった、食べ物を扱ったり、あるいは食したりするような事業についても、令和4年度中にできることは少し始めていた部分もあるのですが、それも全て児童館の中で行えるようになっております。

コロナがすべてなくなったわけではないので、感染対策は継続していきますが、マスクについては、国の指示のとおり個人の判断に任せるところは、子どもたちに対しても同じです。それから消毒とか換気とか手洗いについてはこのまま残していくべきだということで、消毒の内容も、乳幼児のおもちゃの消毒が中心となっていますので、床の消毒などは徐々に減らしていっている状況です。

倉持会長

ありがとうございます。今の御説明について、何か御意見とか御質問はありま

すでしょうか。利用者が増えたり、減ったりというのはありますか。

森主査

それほど変わっていないと考えております。

倉持会長

ありがとうございます。

何かほかにございますか。どうぞ、小林委員。

小林委員

小学校でも積極的に先生方がマスクを外していらっしゃいます。子どもたちが萎縮して、かえって外さないということも出ているようですが、当然、感染に気をつけることは必要ですけれども、それ以上にマスクをすることで表情のやり取りができなくなるということを先生たちはすごく心配されているようなので。我々も地元で遊んでいるときも、子どもたちの前で、あえて、意図的にやっていますので、そういった意味では、児童館がやっている方針、大賛成だと思います。

倉持会長

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、議題の2は以上にしたいと思います。

最初に申しあげましたように、本日が現任期の皆さんの最後の審議会ということになりますので、先ほど一通り、次期に向けた児童館の在り方の検討に向けた意見はいただいたのですが、改めまして一言ずつコメントをいただければと思います。この審議会に参加してみても感想ですとか、これからの児童館に期待することなどです。簡単なものでも結構ですので、順番にお願いできればと。

木本委員からお願いします。

木本委員

私は2期4年、こちらでお世話になりましたが、コロナ禍真ただ中で、先行きが見えない中でも児童館を開けていただいて、子どもの居場所になっていただいたりとか、コロナが少しずつ落ち着いて来始めたら動くということをやっていたことに、すごく子どもの日常を守る動きをしてくださっているなど感じました。とてもありがたいことだなと、一保護者としても思っていました。

すごく印象的だったのが、オンラインで4館合同行事をやっていた中で、実行委員の子たちが対面で、遊ぶ場でしたか、それをやったときに、森さんが、やっぱり子どもたちがリアルに対面したり、体験で生き生きとした表情が見えて、そういうことはすごく大事だということを実感したということをおっしゃられていて、そこにもう全てがあるかなというぐらい、子どもの育ち、生きていくということはそういうことなのだなというのを感じました。それを児童館の方がすごく守ってくださって、これからもきっと体験事業とかを再開している中で守ってくださっていくのだろうなと思って、小金井であってよかったなと思いました。

これからとしては、先ほども言ったように、社会の求めるニーズ、家庭の求めるニーズが多様化しているので、児童館の中で全てを網羅しようと思ったら、それは絶対にできないことだと思いますので、地域と協働して、子どもたちが伸び伸びと過ごせる場をいろいろな場所で作っていただけたらなと思っています。4年間、お世話になりました。

倉持会長

ありがとうございました。

鈴木委員、お願いします。

鈴木委員

私も2期務めさせていただきました。ありがとうございました。大して小金井

市のお力になれるようなことはできなかったかなと思っておりませんが、この場に4年参加させていただいて、意見交換の場として年に数回過ごさせていただいたかなと思っています。昨年度あたりは小部会をつくって少し具体的な動きをするなんていう話もあったかと思いますが、私、欠席もあったので、その辺の、その後がどうなったのかというのがちょっと今、この場で分からなくて大変恐縮ですが、この場で出た意見を受けて、ここの課題はこういう動きが出ましたとか、こういうふうに動いていますというのが次の会議のときになかなか見えにくいような印象はあります。何回来ても同じような話題をひたすら繰り返しているような、そんな印象があって。ただ、私も具体的に何かができるかという、そうでもない、こうしていろいろな方の意見を出して問題を提起する、それを運営されている側だったり、もっと地域の方だったり具体的に何かできる仕組みがもう少しあるといいのかなという印象を個人的には持っています。

ひたすらボランティア、今までだったらお母様、平日のボランティアだったり、大きなイベントだと中高生のボランティアの力は大きいという話、今日もあったと思いますが、私の生活を見ている、お母さんも、小中学生も参加するのは意外と難しいのかなという印象はあるのですが、それをどうするかというのがなかなか難しく、こういった会議の場では具体的ないい意見というのは出てこないかもしれないのですが、利用者を増やすとか、小さなことから始めたりというのは、多分そこから大きな流れができてくると感じていて、そのような面でいろいろな動きがあればいいのかなと思っています。

私は、個人的に児童館のそういったことに貢献できることにつながるのではないかなと思うのは、すごく具体的なことですが、小学生は夏休みの過ごし方がかなり悩むので、児童館のお便りは毎月紙で、学校でもらいます。そのとき一度は目にするので、俺、これ、行ってみたいとか、ちょっと面白そうだなと思うような企画をぜひ企画していただけたら、今まで行っていなかった子も友達に誘われて行ってみるとか、そういう小さな動きがあるのかなと思ったりしますので、そういったことを検討していただけたらなと思っています。

ちょっとばらばらとなってしまうかもしれませんが、今後も機会が合えば、個人的にも、子どもも児童館を利用させていただきたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。期待しております。

倉持会長

ありがとうございます。

では、門脇委員、お願いします。

門脇委員

今後の在り方というふうに捉えたときに、この3年間がいわゆるコロナで、子どもだけでなく大人も含めていろいろな制限がいろんな場面であったと思います。学校でも見ている、例えば行事はこういうのができない、ああいうのができない、そういう中で成長していった生徒を見たときに、こういう行事をこういうふうに行っているから、こういうふう成長していったという場面が失われていたというのは、現場にいてすごく感じました。ふだん当たり前のようになっていること、その積み重ねが実は子どもの成長にすごく寄与していたと。

児童館も多分そうだと思います。制限がかかってしまって、いろいろできない

こと、その中でできることをやってはきたと思いますが、子どもの成長に対しての影響というのはすごくあったのではないかと感じています。

ただ、それを、今5類になって、全てが元のおりに戻るかということ、なかなか子どもたちの状況を見ていても、180度とは言わないけど、そのまま真っすぐ戻るという感じでは様子としてはない。ただ、少しずつ失われたものを取り返すような仕組みであったり仕掛けを、周りの大人は子どもたちにアクセスしていくとか、与えていく場面をつくらなきゃいけないなとすごく思っています。

倉持会長

ありがとうございます。

では、小柳委員、お願いします。

小柳委員

5類になってから本当に学校の閉塞感が開けました。3年生の子たちでいうと、小学校6年間のうちの半分はマスクをして過ごしているわけです。ものすごい制限の中で過ごしている。6歳、7歳の1年生でいうと、人生の半分マスクとか、そういう中で過ごしていると思ったときに、その3年間なりが子どもの成長にどんな影響を与えるのだろう、与えたのだろう、これからどのように出てくるのだろうとか、そういうのは気にしながら見ていく必要があるなど、学校関係者としては思っています。そういう意味で、学校も児童館も含め、いろいろな制限がなくなったときの楽しい空間は大切になってくるだろうなと思っています。

自分ごとになります、この間、26になる娘と話をしているときに、ふと娘が、この間、道端で児童館の何々ちゃんとあって、まだあの児童館にいるんだよという話をするわけですね。失礼ながら、児童館でお世話になった先生方とか、職員の方、随分お年をとっています、何々ちゃんといまだに呼ぶ。声をかけたら、向こうも名前を覚えていてくれたという話になったときに、ありがたいなと思って。これだけで娘の人生は一つ豊かだと思ったときに、児童館の役割、本当にありがたいことだなど。一人っ子だったので、余計に児童館にお世話になった子どもなんですね。きょうだいがいないから児童館で人との交流をたくさん持った、そういう意義がある場所だなどというふうに思っていますし、私は、先ほど小林委員からもあったように、遊びはとても大切だなどというのは私も思っていて、楽しいことって、私は必ず学びがあると思っています。この児童館の在り方を考えるときに、あまり難しく考えて、いろんなことをするというのも大事だけど、もっと簡単に考えて、本当にこれって子どもにとって楽しいかなというのを優先的に考えて、頭でっかちにならずにやってみるというのは、実はとても児童館が求められる大事な要素なのかなというふうに思ったりもしています。今後、また連携を取りながらいろいろ子どもの育ちのためにやっていけるといいかなと思う時間を過ごさせていただきまして、ありがとうございました。

倉持会長

ありがとうございます。

では、村澤委員、お願いします。

村澤委員

私は今回で2回目の参加となりますが、今までは市報などを見て、参加できるものはないかなと毎回見ている立場でしたが、審議委員という立場にならせていただきまして、このように皆さんが一生懸命考えて協議をしてくださっていたということが分かりまして、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

やはり私も二、三十年前までは子ども中心で、親子で参加できるものをたくさん利用させていただいて、生涯にわたる私自身の友達も得ることができましたし、今は民生委員活動を通してボランティアといえますか、健全育成でも参加させていただく機会がありまして、そのような活動をしていると、ボランティアを通して80代の方もされていたり、18歳未満までの方たちのことですが、地域の皆さんも輪ができていますか、本当に児童館は素晴らしいなとすごく感じました。

倉持会長

ありがとうございます。

小林委員、お願いします。

小林委員

私、おやじの会をやっている、立ち上げて最初のときは道具がなかったり、いろいろなことで悩んでいたのですが、緑児童館に行くとなんか森さんがいらっちゃっていろいろ相談にも乗ってくれて、物を貸していただいたりとか、大変助かりました。やはり子育てのこととか子どものことに関して何かやろうという人間が、児童館が司令塔というか、拠点になっていろいろと支援をしたりいうところがすごい効果があるのだなというのを、そのとき自分で体感した記憶があります。

そういった意味で、今、こども家庭庁が、いろいろ審議の内容を見ていると、どうしても子どもたちの受入先とか、居場所の話ばかりしていて、子どもたちをどう見ていったら子どもど真ん中の社会になるのかという、本当に大事なところが見えてこないなというところが少しありまして、そういった意味では、審議会ですらいろいろ話を聞いていると、小金井市は、ハードの面はいろいろ制約がありますが、ソフトの面で何とかできないかとみんなで知恵を絞っている。児童館の方も、市の方も、そういうところで頭をひねっているということは、すごくいい姿勢というか、すごくいい感じがするなということは思いましたので、次回のあり方検討会も、ぜひ子どもど真ん中で、どう考えればいいのか。お金がないのだったら、どう知恵を絞ればいいのか。児童館だけでできなかつたら、地域でどうやったらいいだろうかということも考えていただければと思います。そういったところで児童館と一緒に何かできればなというふうには考えております。

本当にお世話になりました。

倉持会長

ありがとうございました。

それでは、私からも。皆さんに御協力いただいて何とか毎回議事進行できたなと思います。どうもありがとうございました。

私は毎回来て、皆さんの御意見を伺うのがすごく楽しみで、いろいろな立場、いろいろな御経験から、子どもたちの居場所ということについての御意見を言うていただくというのが、自分の観点からと違う観点をいただけて、もちろんそれは事務局もそうだと思いますが、こういう審議会の組織というのは大変貴重ななということを改めて思いました。

皆さんおっしゃったように、ちょうど私たちの任期はコロナとかぶっていたということもあって、それまでやっていたことから、まさに変遷していたプロセスを伴走してきたという部分はあるのですが、そういった中で、居場所としての機能をどう維持するか。安全・安心ということを担保しながら、施設を開けていく

か、どう事業を動かしていくかということについての試行錯誤を御報告いただいたり考えることができたというのは、貴重な機会だったと思います。それは多分、これから先、コロナの前に戻すというよりは、そういう機会を経て、恐らく事業の在り方とか施設の在り方を問い直されたというか、見詰め直す機会だったなと思います。何で開かなきゃいけないのかとか、何でそういう事業が必要なのかということは、できなくなって初めて見詰め直すという部分は大きかったと思いますし、だからこそ、その使命といましようか、役割ということも改めて明らかになってきたのかなと思います。

失われた何年とかという言い方をしますけれども、私は、この世代の、ちょっと上の世代の大学生たちを見ていると、例えば今年入ってきた1年生たちは、高校3年間ほとんどコロナで体験的な活動とか楽しい活動をできなかった世代ですけれども、非常に積極的で意欲的な学生が多いなと思っています。それは取り返そうというのもあるとは思いますが、いろいろと考えたり見詰め直す期間があって、より積極的、意欲的になっているというポジティブな部分もあるのではないかと考えていて、もちろん足りなかった部分を補うという観点も必要ですし、それとともに新しいことに挑戦していくという子ども、若者たちを支援できる。あるいはコロナにかかわらずいろいろな困難な状況があって、こういった地域の誰でもが利用できる施設だからこそ、地域社会資源にアクセスできるという子どもたちもいると思いますので、そういった子どもたちへの目線も忘れずに取り組んでいくという、幅広い目線が必要ではありますが、次の世代に向けた対応ということは児童館に非常に期待されているなということを改めて感じました。

学生を通して、私も今後、職場の市内にある児童館ですので関わらせていただくこともあるかと思っています。皆さんとどこかでお会いすることもあるかもしれませんけれども、今後ともよろしく願いいたします。

どうも皆さん、ありがとうございました。

それでは、閉会の前に皆さんから何かありますでしょうか。事務局からは何かありますか。せっくなので事務局からも何か一言おっしゃいますか。

深草課長

いただきましたこちらの資料14の意見ですけれども、次の審議会に今回の委員会からの御意見ということで引継ぎをさせていただきたいと思います。その上で在り方ということや次の審議会でも審議させていただきたいと思いますので、この間、児童館運営審議会委員として皆様に様々な御意見をいただきまして誠にありがとうございました。

また、倉持会長には審議を進めていただき、また意見などをまとめていただき誠にありがとうございました。

私どもといたしましても、この審議会でもいただきました様々な御意見、また、児童館に関する期待をととても感じたところで、私ども職員一同、身を引き締めて児童館運営を行ってまいりたいと考えております。また、課題なども様々ないただいております。そうしたところを生かしながら、今後の子どもたちの遊び、また、楽しい場所というところも先ほど委員からいただいておりますので、そうしたところも考えながら小金井市の児童館としてどうしていくべきかということや将来

に向けて考えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
ありがとうございました。

倉持会長

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回小金井市児童館運営審議会を
閉会いたします。皆さん、どうもありがとうございました。